

環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する
基本方針の作成に向けた懇談会の資料

全国小中学校環境教育研究会会長
江戸川区立中小岩小学校校長 佐々木 定治

1・全国小中学校環境教育研究会について

○研究主題・・・21世紀の提言

——豊かな人間性を育む環境教育——

○会員

○東京都小中学校環境教育研究会

○第36回 全国小中学校環境教育研究大会・・・江戸川区立東葛西小学校 1/21

○第40回・東京都小中学校環境教育研究発表会と同時開催

2・研究会では、環境教育を次のように捉えている。

1、環境教育は、我々人類が、この地球に永遠に生存し、限りなく繁栄するための必須の教育である。

1、環境教育は、国際的な連帯を基調とし、地球的視野に立って推進する。

1、自然を愛護し、環境に対して正しい認識を持つことは、豊かな人間性の重要な資質であり、その育成を期す。

1、教育課程の編成・実施にあたっては、総合的な学習および教科・道徳・特別活動等の指導を通して環境教育の充実を図る。

1、環境教育の推進にあたっては、家庭や地域社会及び関係諸機関との連携を密にし、一致協力してこれにあたる。

3・本校の実践の一端

中小岩小学校は、昭和18年に開校し昨年度「開校60周年記念式典」を盛大に挙行することができた。開校当時の「思いやりの教育」と地域・保護者の「愛校奉仕」に支えられ、時代の変転きわまりのない激動を乗り越えて、常に先進的な教育活動を展開してきた学校である。

このことは、東京の最終の国民学校設立校としての、由緒ある中小岩小学校の誇りでもある。

沿革史をひもとくと、各教科・特別活動・環境教育・ボランティア活動・国際理解教育・学習評価の研究など、その時代のニーズに合わせた最先端の教育活動と研究を推進してきたことがわかる。

そして、開校60周年記念事業の一環として、「省エネ共和国」を平成15年6月に建国した。この建国宣言は、江戸川区の施策の一つである区内幼小中全校の「資源循環型学校づくり」の趣旨に合致するものであり、21世紀を展望した江戸川区基本構想にある「地域環境に負荷を出来る限り少なくするように、江戸川区独自の取り組みを進める」ことにつながり、「省エネ共和国憲章」の趣旨でもあると確信する。

たった一つしかない「かけがえのない地球」に負荷をかけ過ぎず、次代に引き継ぐことを約束する持続可能な社会をつくることは、地球にすむ人間の責務である。そのためには省エネルギー・環境教育の充実・リサイクル等の実践活動の推進を含めた地球温暖化防止の意義を認識し、一人一人の人間がエネルギー消費節減に取り組むことが大切である。

この基本理念に基づき、本校の教育課程における教育方針に「人や環境を大切にす思いやりの心を培う」と位置づけた。さらに本校の教育の特色としての「思いやりタイム」の一環に・・・「省エネ共和国」として、省エネルギー・資源循環型の環境学習・リサイクルなどを推進する。また「省エネ隊」と「環境委員会」を中心に全校児童で省エネに取り組み、「たった一つの地球」を大切にす実践力を培う・・・と位置づけた。

また、本校では学校評価の項目に「省エネ共和国の活動を通して、人や環境を大切にす・・・思いやりの心・・・を育てている」を設けている。合わせて外部評価を行った結果、この項目に対しては「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定評価が83%を占めた。この評価は20項目中の6番目であり、建国から短期間で地域にも認識されその成果が高く評価されたものとする。

またPTAが独自に「省エネアンケート」を実施したことからも、省エネ活動が地域に確実に根付きつつあると確信する。

本年度の4月より江戸川区では、・・・特定非営利活動法人 エドがわエコセンター・・・が設立され、環境生活力のある人づくりとして①自然環境を活用した体験プログラム ②地球温暖化やごみ問題、資源リサイクル講習会 ③人材育成講座 ④区商店街連合会、小中学校などと連携した事業を展開している。

このことを通して65万都市江戸川区のエコタウン化を目指している。

全国の小中学校で、総合的学習の時間の中で「環境学習」を取り上げている学校は何と90%以上にも及ぶ。環境を学び、実践することで、未来の世紀を子孫に残すことに繋がることを人間の暮らしの中で緊急性のあることに気が付いてきた表れであるとする。

私は、「環境」を保全することは、人の暮らしを振り返り人間の生き方省みることだと考える。そしてこのことは、小学校の段階から学習に教科として、「学び」「振り返り」「実践」していくことが大切だと確信している。

4・本校の実践を紹介・・・映像